

# Memento

## 第1号

京都部落問題研究資料センター通信

発行人 灘本昌久  
発行所 京都部落問題研究資料センター  
京都市北区小山下総町5-1  
京都府部落解放センター3階  
TEL・FAX 075-415-1032  
郵便振替 00930-4-16404

## 資料センター所長就任にあたって

- 第3期の部落解放運動と研究活動 -

灘本昌久

このたび、京都部落史研究所が改組されて発足することとなった京都部落問題研究資料センターの所長に就任いたしました。就任にあたり、ひとこと所信を述べさせていただきます。

### 1. 京都部落史研究所の23年

本センターの前身である京都部落史研究所は、1977年に発足しました。設立のきっかけは、京都市が編さんしていた『京都の歴史』において、原稿段階で盛り込まれていた部落問題に関する記述が、のちに削除され、違う内容に差し替えられるという事件が起こったからでした。このことを問題視した部落解放同盟京都府連合会が行政を追及し、部落史を明らかにするための研究事業を要求し、行政側もこれを認めて予算措置にふみきました。こうして京都部落史研究所が師岡佑行氏を所長にむかえて発足し、以来、23年の長きにわたり、地方における実証的な部落史研究のモデル的存在として、多くの成果を生み出してきました。

京都部落史研究所の予算は、当初の10年計画のピーク時で年間3000万円程度でした。そのうちの多くを行政からの編集委託費に依っており、行政からの補助

のうち京都市が半分、京都府が4分の1、残りの4分の1を京都府下各市町村に分担していただいております。また1000人を超える会員からの会費収入も全体の予算に占める割合は1, 2割程度でありましたが、貴重な財源でした。当時、一地方の部落史研究に年間3000万円ほどの予算がつくというのは、かなり画期的なことでした。同和事業のハード面にはかなりの額の予算がつくようになっていましたが、部落の歴史研究というようなソフト面には、まだまだ支出がなされない時代でありました。しかし、ひとくちに3000万円というのかなりの高額のように聞こえるかもしれませんが、この中には、家賃や光熱費はもちろんのこと、所長1人、研究員2人、事務員1人の4人の専任の人件費と、非常勤の研究員、アルバイト、企画委員の手当てなどが含まれており、決して潤沢ではありませんでした。60歳を過ぎた師岡所長の月の手取りが30万円前半でしたし、12年間勤めた私の月の手取りが20万円を越えたのは、やめる最後の年の1年きりで、30歳台なかば3人の子持ちとしては、なかなか厳しいものがありました。今からふりかえると、どうやって食べていたのか不思議な気がしないでもありません。し

Memento(メメント)とは、ラテン語で「記憶する」「考える」の命令形です。京都部落問題研究資料センター通信は、部落問題や差別問題についてのさまざまな情報提供をすることから、Mementoと名付けることにしました。

かし、研究所のスタッフは、自分たちの賃金を増やすよりは、それを1円でも研究費にふりあてようと、かなり自己犠牲的精神でそうした境遇を苦にもしていません。

研究所の活動が10年を経過したころ、研究所の将来構想が検討され、一時は法人化して安定した運営をする計画もあったように記憶していますが、1986年の地対協意見具申以降、行政の風向きががらりと変わり、あとは同和事業費が縮小の一途で今日にいたることになります（このこと自体を必ずしも否定的に考えているわけではありませんが）。部落史研究の予算は、同和事業のなかでも実生活に直接目に見えた影響がないのでみるみる減少し、1980年代の後半は、府下の町や他府県の部落史編さんの委託で辛うじて運営するような状態でした。

## 2. 京都部落問題研究資料センター設立

そして、1990年代なかばより『京都の部落史』全10巻完結後の京都部落史研究所の存続が企画委員会でたびたび議論されました。私自身は、どこかの大家の先生があとを引き受けてくださるものと期待しておりましたし、その際にはひきつづき協力をおしまない気ではいましたが、結局所長後任の引き受け手がなく、2000年の年が明けてしまいました。今年になって、研究所の将来につき意見をもとめられたとき、私は「解放同盟が引き取って、資料室として残してはどうですか」と返事をしたように記憶していますが、3月ごろに部落解放同盟京都府連合会からは「こういう研究事業は運動が直轄でやるべきものではなく、研究者が運動からは独立して、大所高所からやってもらいたい」という趣旨の依頼があり、5月ごろには企画委員の先生から「師岡さんは長い間やってきたので辞意がかたく、なんとか君がやってくれないか。もう若い人でやったらいいだろう」とのおすすめがありました。

企画委員会からのおすすめはともかく、部落解放同盟からの依頼には、正直いってたいへん驚きました。なぜなら、私は、この10数年にわたって、解放同盟中央本部の基本的な路線や戦略につき、常に異を唱え

つづけており、とうてい部落解放同盟のお気に召すような言説は今後もまったく期待していただけないからです。

たとえば、部落解放同盟は、1985年以来、同和対策事業特別措置法の無期限版たる「部落解放基本法」を要求してきておりますが、私はこれに強く異を唱えています。古くは、京都部落史研究所月報『こべる』1988年6月号所収「部落差別を根拠とする権利の合理性について」において、同和施策を要求するときにもちだされるオールロマンズ事件の小説は、在日朝鮮人の生活を描いたものであるもので、部落のみの要求闘争のダシに使いつづけるべきではなく、同和事業の所期の目的を達しつつある現在にあっては、もう少し社会的弱者・被差別者を広く救済する方向へ路線を転換しなくては、部落解放同盟が単なる利益団体になってしまう危険性があると指摘しています。また、『こべる』1993年8月号の「第3期の部落解放運動とイメージ戦略 - 差別反対キャンペーンの得失 -」では、部落解放同盟の糾弾闘争が、同和行政闘争時代の古い体質にもとづくものであり、実際の部落大衆の生きる力にはなっていないことを論じました。さらに、『こべる』1996年7・8月号「瀬川丑松、テキサスへは行かず」においては、現在の部落解放運動では否定的人物像の代表格である島崎藤村『破戒』の主人公瀬川丑松を全面擁護しています。さらに極めつけは、絵本『ちびくろサンボ』絶版問題に関する拙著『ちびくろサンボよすこやかによみがえれ』（1999年刊）で、部落解放同盟の大勢が『ちびくろサンボ』を批判し、絶版には肯定的であるのに反して、絶版措置を徹底的に批判しており、それだけならまだしも、差別であるか否かの判定にあたって被差別者の感情を重視する「被差別の痛み論」をかなり手荒く否定しております。このように、1980年代後半以降、私は部落解放同盟の基本的な方針にことあるごとに批判や、異論を繰り返してきているわけです。こう書き連ねてみると、「どうして灘本さんは部落解放同盟と行動をともにしているのか？」という、よくある素朴な疑問もわかるような気がします。

ともかくそういう確信犯的な私に所長を依頼するのは、部落解放同盟が意見の相違に気づいていないのか、はたまた根性がよほどすわっているのか、あるいは後継者に窮しているのか、ともかくまったく驚くほかありませんでした。

しかし、確かに部落解放運動の斜陽産業化にともない、研究者や活動家の高齢化がすすんでいることはたしかで、後継所長をさがそうにも、40歳台半ばまでの世代で考えるとむつかしかったことは理解できます。私が1981年に大学を卒業するとき、卒論のテーマは「高松差別裁判糾弾闘争について」を選んでいますが、同期の12人のうち3分の1が部落問題のテーマで卒論を書いて卒業しました。しかし、その後部落問題への関心は目に見えて薄らいでゆき、学生解放研活動も急速に消滅していきました。これは、部落差別の状況が急激にかつ大幅に改善されてきた結果でもあり、いちがいに悪いことではないのですが、ともかく昔のように、若い人手がいくらでも調達できる条件は、今の解放運動にはありません。

そんなわけで、私が所長というような器ではないことを承知しながら、長年の誼（よしみ）ということでお引き受けする決意をいたしました。四半世紀近い解放同盟とのつきあいがなかったら、いまさらこんな大役を引き受ける気にはならなかったでしょうし、また解放同盟のほうも、これほど意見が食い違いそうで何を言い出すかわからないような人物を、重要な研究機関の長には敢えてすえようとは思わなかったと思います。しかし、考えてみれば、部落解放同盟京都府連合会は、西島藤彦書記長を中央執行委員（書記次長）として送り出しており、氏は解放出版社の担当という教育的・啓蒙的方面の責任を担っています。その選出母体である京都の地で、研究機関を全国に先駆けて消滅させてしまっただけで、京都の運動の体面にもかかわるでしょう（もちろん、全国に先駆けてやることをやって廃止するのもひとつの見識ではありまじょうが）。せめて、西島氏の任期中くらいは、お互いに協力して京都でささえるのが解放運動の仁義と思っています。

### 3. 研究活動の重要性

もうひとつ、私が所長をお引き受けする、より重要な理由があります。それは、部落問題の解決ははまだその途上にあり、研究活動はもうしばらく続けていく必要があると考えるからです。いや、むしろ今までは、研究とはいいながら、運動側からの位置付けは、同和事業獲得のための刺身のつまみたいな扱いのところがあり、部落が貧困で低位で迫害されていることを証明できればこと足れりとされてきたきらいがありました。しかし、これからが研究の本領発揮の時代ではないでしょうか。部落差別の現状はどうなっているのか（目に見える環境面なら経験的にわかるが、子どもの学力水準などは調べてみないとわからない）。部落問題のどこに、どのように、どれぐらいの、運動・行政・市民の力を投入していけばいいのか（今までのようにやればやるほどいいというわけではなく、運動と普段の生活のバランスも重要）。また、他の差別問題や人権問題との関係や整合性はいかに（必ずしも部落問題が最優先課題と決まっているわけではなく、ケースバイケースで判断すべきことが多い）、などなど。こうしたことは、量的拡大を追求していけばよかった時代とは違い、本当に真剣に考えていかななくてはならないと思います。

ここでふと、昔、今から20数年前のことを思い出しました。1976年だったと思いますが、全国で展開されていた網の目行進（各部落に行動隊をつくってオルグにはいる）に学生解放研として参加した時のことです。同じ隊に、先般亡くなった元府連副委員長の大西栄三郎氏がおられました。氏は、本当にひょうきんな人で、夜の懇親会の時には手ぬぐいで頬かむりして、手には箒をもち、しりはしりをしたおかしな格好をして、若い隊員を笑わせていました。しかし、そのあとの車座になっての話のときに急に真顔になって、「今、要求している同和事業を通じて、部落の生活は向上し、いずれ世間並みに追いつく。部落解放は、そこから勝負や。」そう、いわれたのです。当時は、部落の低位な生活実態は、差別の結果つくられており、

その差別と貧困の悪循環を同和事業によって断ち切れれば、差別は解決する。言い方をかえれば、同和事業の進展とともに差別はなくなると考えられていたので、大西氏の二段階革命のような考え方は、聞きなれない感じがすると同時に強く印象に残りました。その後の20数年をふりかえると、生活の向上とともに差別がなくなってきた面は確かにありますが、生活が一定安定したこれからは勝負、という考えもかなりの程度あっているとと思うのです。

#### 4. みなさんのご協力を

そんなわけで、柄にもなく京都部落問題研究資料センターの所長をお引き受けすることにしました。機関の名称を決めるにあたっては、身の丈にあった名称にしたいということで、資料の管理・運営と情報提供に徹することにして、研究の字を省きたかったのですが、西島氏のたつての希望で残すこととなり、長い名前になってしまいました。略して「資料センター」とでも呼んでください。また、部落解放ではなく部落問題としたため、歴史と伝統ある「部落問題研究所」と紛らわしくなってしまった点は、問題研の方々にお詫びし

ます。資料センターと間違っ、そちらに行かれる一般の利用者がいましたら、ご指導方よろしく願います。

今まで、京都部落史研究所をささえてくださったみなさん、引き続きよろしく願います。そして、新たに支えてくださるうとお考えのみなさん、ありがとうございます。頼りにしています。これからの研究は、行政に丸抱えで予算措置をしてもらうことは困難であるし、時代にもあわないでしょう。むしろ、関心のある人たちの無償の協力に支えられて、地道に続けていけばいいのではないかと考えています。とりあえず、2002年3月の同和事業終結時点まではがんばってみる所存です。それまでに、省エネルギー・自給自足体制が確立できたらさいわいです。できなければ、解散閉所するしかありません。前川修さん、平野貴子さんの二人の常勤スタッフは、給与面で更に労働条件が悪化しますが、もうひとがんばりしてくださるとのことです。私も、所長とはいいいながら、まったく無報酬です。しかし、解放理論の新しい展開にむけて、従来ありがちだったあたり障りない言説を廃し、本音で語る活動をめざして全力でがんばります。乞うご期待。

## 京都部落問題研究資料センター組織と業務内容について

### 役員

所長	灘本 昌久 (京都産業大学助教授)	
顧問	秋定 嘉和 (池坊短期大学特任教授)	仲田 直 (佛教大学教授)
	西島 藤彦 (部落解放同盟京都府連合会)	土方 鐵 (作家)
	森谷 尅久 (武庫川女子大学教授)	師岡 佑行 (歴史家)

### 業務

図書室の一般開放  
(月曜日～金曜日、第2・第4土曜日の10時～17時に開室。どなたでも閲覧できますが貸出は会員のみです。)

地域での学習会・講演会への講師派遣・紹介

学生・大学院生の論文執筆支援

部落史・啓発書編纂のアドバイス

インターネットでの情報提供

### 会員

会員には図書・資料の貸出(郵送による貸出もおこないます)及び、情報誌「Memento」(京都部落問題研究資料センター通信、年4回発行)の送付をします。

個人会員が年額 4,000円

団体会員が年額 8,000円

# 最近こんな本を読みました 前川 修

かねしるかずき ゴウ  
金城一紀 『G O』(講談社刊, 2000年3月30日): 1,400円

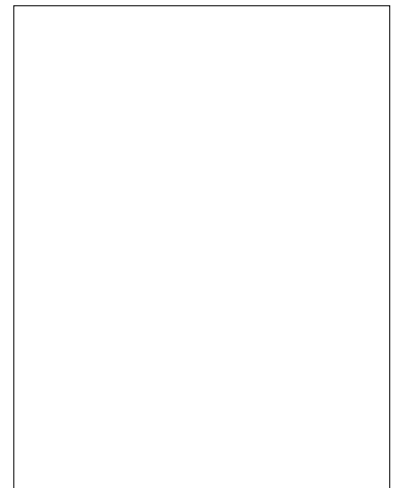
学生時代、客があまり来ない、オーナーの趣味で開いているような焼肉屋でアルバイトをしていたことがある。時折、雇われ店長が冷蔵庫から鮮度が落ちた肉を取り出し、コショウの瓶に入った粉を振りかけていた。「それなんですか?」と訊くと、「ワシも何だか知らんが、これをかけると赤くなるんや」と言っていた。その時は、そういうものかと深く考えなかったが、何年かしてそれが発色剤だったことがわかり、焼肉屋で妙に赤い肉には手を出さなくなった。極端に暇な焼肉屋は、読書をするのに最適な環境をあたえてくれ、李恢成の作品を片っ端から読んでいた。李恢成が描く「在日青年」は極端に暗い。それは、日本社会からの差別と分断された祖国を背景にした暗さであった。焼肉屋の片隅で、無益な時を過ごす私自身と主人公たちはどこかで繋がっているような気がしていた。

金城一紀の『G O』は、「在日」が受ける日常的な理不尽さを軽やかに描こうとした作品で、李恢成の作品とは、まったく異なった雰囲気の中、ストーリーは展開する。ファッション・音楽・映画、そして恋愛。主人公の「僕」は中学までは「朝鮮学校」に通う「在日朝鮮人」であったが、両親とともに「韓国籍」に変わり、高校からは「日本の学校」に通っていた。喧嘩が強く、頭のイイ、オシャレな高校生だが、何かにこだわり続けていた。こだわっていることを一言で言えば「在日」ということだが、「僕」が体験するさまざまな事件から、こだわり続けているモノを説明しようとする。説教臭くなりながら内容を面白おかしく包み込む工夫もされている。「桜井」と名乗る少女がミステリアスに登場し、唐突に恋愛が始まる。少女に国籍を隠すことが「僕」の最大のこだわりだ。初めてのセックスの前に国籍を告げるが、少女は父親から「韓国とか中国の人は血が汚い」と教えられてきたためにショックを隠せない。少女に、刷り込まれた偏見を取り除こうと、

「僕」はお得意の理屈で国籍・先祖・DNAについて説明する。しかし、少女は「理屈では分かるんだけど、どうしてもダメなの。なんだか怖いよ……」。杉原がわたしの体の中に入ってくることを考えたら、なんだか怖いよ……」と拒絶を続ける。

この作品は、旧来描かれていたジメジメした「在日青年」のイメージを払拭して、今を生きる「在日青年」を描こうとしたものである。作者自身もこれまでの「在日文学」を「『暗いなあ、何だこれ』くらいしか感じられなかった」と語り、さらに今の「在日青年」は「在日のアイデンティティーといった問題より、恋愛の大切さの方が、第一義にくる」(京都新聞2000年5月17日)と言い切っている。

しかし、作者の発言とは裏腹に、主人公「僕」は「在日」にこだわり続けている。これは、作者金城一紀の31才という年齢と関係しているのだろう。作者自身が高校生であったのが10数年前のことで、今の高校生の感覚とはズレがあり、このズレが作品に投影されているために、「僕」の妙にジメジメしたところが見え隠れするのである。さらに、この作品の難点をあげれば、「僕」がオシャレで頭が良く、喧嘩が強く女にもてるということだ。これは、あまりにもリアリティーのない超人で、そこに凶暴であるのに心やさしい性格が付け加えられるため、人格が分離したような存在になっている。ともあれ、テンポの速い、 트렌ディードラマのような小説なので、気軽に読んでみてはいかがでしょうか。



## 収 集 図 書 (2000年4月～6月受入)

- 新しい部落史像を求めて(師岡佑行著, 夙川学院短期大学同和教育研究所, 2000.3)
- 怒りの臨界(鎌田慧著, 岩波書店, 2000.3): 1,600円
- 泉佐野市史研究 第6号(泉佐野市史編さん委員会編刊, 2000.3)
- 唄で命をつむいで 部落のおばあちゃん、母、そして私(ただえみこ著, 青木書店刊, 2000.1): 1,700円
- 描かれた女たち 絵巻の主婦像から昭和の美人画まで(塩川京子著, 朝日新聞社刊, 1999.5): 1,200円
- [大阪市教育センター]研究紀要 平成11年度第2巻(大阪市教育センター刊, 2000.3)
- 大阪の部落史 第7巻 史料編現代1(大阪の部落史委員会編, 部落解放・人権研究所刊, 2000.1)
- カオスの中の社会学(花園大学人権教育研究室編, 批評社刊, 2000.3)
- 加茂町史 第5巻資料編2(加茂町史編さん委員会編, 加茂町刊, 1999.3)
- 関西に盡くまだまだ懲りない面々(グループ・K21編, K21企画刊, 2000.6): 1,800円
- 共生の社会へ 企業のための人権ハンドブック(人権教育啓発推進センター刊, 1998.3): 525円
- 京都市外国籍市民施策懇話会 1999年度(平成11年度)報告([京都市外国籍市民施策懇話会]刊, 2000.3)
- 京都市の文化財 第12回 新指定・登録の美術工芸品(京都市歴史資料館編刊, 2000.5)
- 京都文化短期大学紀要 第31・32合併号(京都文化短期大学学会刊, 2000.3)
- 近世身分と被差別民の諸相 <部落史の見直し>の途上から(寺木伸明著, 解放出版社刊, 2000.3): 1,900円
- 心ひらこう(人権教育啓発推進センター刊, 1999.11): 220円
- 心豊かな社会をめざして 福山市人権平和資料館開館5周年記念誌(福山市人権平和資料館編刊, 2000.3)
- GO(金城一紀著, 講談社刊, 2000.3): 1,400円
- <在日>という生き方 差異と平等のジレンマ(朴一著, 講談社刊, 1999.11): 1,680円
- 自分・差別・世間(岸衛著, 反差別国際連帯解放研究所しが刊, 2000.2): 500円
- 人権ア・ラ・カルト みんなで考える人権(人権教育啓発推進センター刊, 2000.3): 220円
- 人権啓発担当者用資料集 "「人権教育のための国連10年」に関する国内行動計画"を中心に(人権教育啓発推進センター刊, 1998.3): 1,785円
- 人権の世紀のために 歴史・教育・啓発・運動、そして自分史(川向秀武著, 福岡県部落解放・人権研究所刊, 2000.5)
- 人権 ゆかりの地をたずねて 丹波・丹後編(京都人権啓発推進会議刊, 2000.2)
- 世界人権宣言50周年を迎えて 人権教育のための国連10年を推進するために(人権教育啓発推進センター刊, 1998.11): 1,575円
- 世界人権宣言と人権文化 人権文化の創造に向けて(人権教育啓発推進センター刊, 1999.5): 1,575円
- 創造・団結・前進 部落解放同盟京都府連合会改進黨支部30周年記念誌(部落解放同盟京都府連合会改進黨支部刊, 1999.12)
- 男女が平等に参画できる社会をめざして「男女共同参画社会基本法」と京都市の取組(京都市文化市民局人権文化推進部男女共同参画推進課, 京都市女性協会刊, 2000.3)
- 中近世における朝鮮観の創出(金光哲著, 校倉書房刊, 1999.6)
- ともに生きる 人権問題と大学(関西大学人権問題委員会編, 関西大学刊, 2000.3)
- 同和問題の解決に向けて 別冊 なんてやねん一問一答(矢田啓発冊子編集委員会編, 大阪市同和事業促進矢田地区協議会刊, 2000.6)
- 長岡京市の寺社(長岡京市教育委員会刊, 2000.3)
- ねっとわーく京都 137号(ねっとわーく京都刊行委員会刊, 2000.6): 500円
- 農耕の風景 摂津の四季耕作図(吹田市立博物館編刊, 2000.4)
- 走れ、ジョン 親子向け人権・同和問題啓発資料(人権教育啓発推進センター刊, [2000]): 420円
- 反骨の棋士 名人 阪田三吉特別展(触松歴史資料館刊, 2000.5)
- 第7回東九条マダン報告集([東九条マダン実行委員会]刊, 2000.3)
- ひとのみち 1999年度版 人権学習 記録と資料(佛教大学人権問題委員会編, 佛教大学刊, 2000.3)
- 部落解放同盟京都府連合会第47回定期大会議案書(部落

解放同盟京都府連合会編刊, 2000.4)

**部落問題のパラダイム転換**(野口道彦著, 明石書店刊, 2000.4): 2,500円

**部落問題はいま...。部落解放基本法の制定を目指して**(鳥取市人権情報センター編, 鳥取市刊, 2000.1)

**三木の部落史を学ぶために 部落史発見の旅への誘い**(三木市部落史研究会著編, 三木市教育委員会刊, 1999.3)

**みつめてください あなたを 同和問題・人権問題に関する意識調査が問いかけるもの**(鳥取市人権情報センター編, 鳥取市刊, 2000.2)

**民間に生きる宗教者**(高埜利彦編, 吉川弘文館刊, 2000.6): 2,800円

**むかしのくらしと学校**(吹田市立博物館[編]刊, 2000.1)

**野洲の部落史 通史編・史料編**(野洲町部落史編さん委員会, 京都部落史研究所編, 野洲町刊, 2000.3): 2,500円

**野洲の部落史 通史編・史料編 別冊参考資料集**(野洲町

部落史編さん委員会編, 野洲町刊, 2000.3)

**八瀬童子会文書**(京都市歴史資料館編刊, 2000.3)

**矢田同和教育推進協議会第31回総会議案書**(矢田同和教育推進協議会編刊, 2000.5)

**吉原御免状**(隆慶一郎著, 新潮社刊, 1988.9): 590円

**歴史としての戦後史学**(網野善彦著, 日本エディタースクール出版部刊, 2000.3): 2,200円

**ワークショップ「気づき」から「行動」へ 参加型人権教育・啓発ガイドブック**(人権教育啓発推進センター編刊, 1997.1): 1,400円

**和歌山県同和運動史 史料編**(和歌山県同和委員会編刊, 1995.3)

**和歌山県同和運動史 通史編**(和歌山県同和委員会編刊, 1998.3)

**私の世界史**(小玉新次郎著, 阿吽社刊, 2000.5): 3,100円

## 収集逐次刊行物目次 (2000年4月~6月受入)

~各逐次刊行物の目次の中から編集部判断でピックアップしました~

**明日を拓く 東日本の部落・差別問題研究 32**(東日本部落解放研究所, 2000.1): 1,000円

特集 教育・啓発の現場から

Ｃ社就職差別事件に取り組んで 荒川商業高校定時制の就職差別反対闘争の中から見えるもの 桐畑善次/座り続けることの意味 阪口克朗/太鼓の中にも名前を書いたよ 太鼓職人の誇りを子どもたちに 名谷和子

馬の文化史 8 動物飼育とケガレ観 塩見鮮一郎

**ウイングスきょうと 第38号**(京都市女性協会, 2000.6)

図書情報室新着案内

「変わるお葬式、消えるお墓」(小谷みどり著)/「社会学フォーラム 落ち着かない<私>と<社会>」(富田英典・森谷健編著)/「母性愛神話のまぼろし」(ダイアン・E・アイヤー著)/「女性の仕事おこし、まちづくり 男女共同参画社会へのエンパワーメント」(上野勝代他著)

**ウインズ・風 第22号**(福岡県同和教育研究協議会, 2000.3)

講演 啓発は人権の町づくりをめざす活動 寺沢亮一

NPOと「希望工程」の発展に関する国際会議に出席して 川向秀武

部落史再入門 水平社宣言の読み方 私流<下> 石瀧豊美 わがまま・書評

「戦争論」(多木浩二著)/「学童集団疎開史 子どもたちの戦闘配置」(逸見勝亮著)/「少年時代」(藤子不二雄A著)/「李朝国使3000キロの旅 雑学」朝鮮通信使”を歩く」(嶋村初吉著)/「異郷の炭鉱 三井山野鋳強制労働の記録」(武富登己男・林えいだい編)/「教師用『同和』教育資料日本と朝鮮の歴史」(福岡県朝鮮文化研究会世話人会編)

**解放教育 389**(明治図書出版, 解放教育研究所編, 2000.5): 680円

特集 授業づくりの視点と方法 たしかな思考力を育てる 文化的実践としての授業とその研究視点 日米比較から 森田英嗣/すべての子どもたちに学力を保障するために 斎藤史恵/人とつながる喜びを〇君に 国語科学習「君に伝えたい」より 夏原美津子/子どもが追究したくなる授業づくりを 河野睦子/子どもの瞳の輝く授業をめざして 算数科「図形の面積」の場合 犬塚充子/教材開発の視点をさぐる 中学校・国語科の授業より 紀伊茂/「ディカプリオ」から「田嶋陽子」まで 本音で語り合ったジェンダーフリー(高校・現代国語) 田辺瑞枝/英語嫌いを作らない英語の授業 上道小太郎

歴史認識を問い直すために19 ムラを支えた仕事 ニカワ

とマッチ 中尾健次

図書紹介 「障害児と共に学ぶ イギリスのインクルーシブ教育」(アリソン・ヴァートハイマー著)

書評 「アイデンティティ・ポリティクスを超えて 在日朝鮮人のエスニシティ」(金泰泳著)

**解放教育 390**(明治図書出版,解放教育研究所編,2000.6):680円

特集 読本「にんげん」実践の鼓動 発刊30周年を迎えて 民衆の歴史責任を問う視点 「ばんざいじっさま」と「にんげん」 さねとうあきら/生活を背負う子どもへの応援歌 田村賢一/自分たち自身を自由にとこと 稲垣有一/迷いから確信へ、そしてあこがれへ 私の「にんげん」実践 片桐育子/「にんげん」と私、そして教職員組合活動 新居晴幸/21世紀を展望する 「にんげん」に 中野陸夫/子どもたちに自己の課題を 「なかま」と「にんげん」の間で 中村拓三

歴史認識を問い直すために20 ムラの食生活 茶ガユときざみ 中尾健次

**解放教育 391**(明治図書出版,解放教育研究所編,2000.7):680円

特集 夏を愉しむ ゆたかな生活体験のつくり方

夏期長期休暇、それは多様な体験の絶好のチャンス 大平滋/皮とはきもの げたばこをのぞいてみよう 大阪人権博物館/高槻の夏の取り組み オリニキャンプから考えること 高槻むくげの会/ともに闘う仲間をめざして 築城町解放子ども会の活動 緒方康文/子どもたちの夏 「ひょうご'99 子どもの詩と絵<第20集>より」/親子自然体験教室 自分の中の地球発見 矢野博幸/子どもがおとなと出会うとき 森末哲朗/大自然に親しむ地方へのホームステイの取り組み 牧憲一

書評 「同和教育への招待...人権教育をひらく」(中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実著)

歴史認識を問い直すために21 部落の食文化 サイボシ 中尾健次

**解放研究しが リリアンス研究紀要 第10号**(反差別国際連帯解放研究所しが,2000.5):1,000円

特集1 研究所10年を振り返る

われわれは、ドンキホーテが 長い研究所の名前と遠大なロマン 野口道彦/対話型社会教育場面について 八木晃介/十年間で見えてきたもの 三浦典子

特集2 研究所10年に寄せて

準拠価値と人権 「ここだけの話」 森口兼二/差

し当たっては「君が代」現象を検証しよう 抑圧移譲の構造を解き明かすために 吉田賢作/カテゴリー処理の社会的機能 上杉孝實/部落問題の取り組みの転換点にあたって 人権教育のあり方を考える 田宮武/歩みをとめて 岸衛

**月刊解放の道 195**(全国部落解放運動連合会,2000.4):350円

同和行政・同和教育をなくす広島県北連絡会の結成に向けて 岡本幸信

同和・部落でない新しい住民運動へ 「さくら介護センター」づくり 末永弘之

新しい世紀にむけた全解連第29回定期大会 中島純男

**月刊解放の道 196**(全国部落解放運動連合会,2000.5):350円

長野県の同和对策行政 問われるその根拠と妥当性 長野県部落問題研究会

いま、なぜ「人権教育」推進なのか その主体は誰か(上) 木村光夫

「同和問題の現状および今後の同和对策のあり方について」滋賀県人権施策推進懇話会第6回会議 滋賀県連の意見陳述(要旨)

**月刊解放の道 197**(全国部落解放運動連合会,2000.6):350円

松商校長自殺事件の真相は...「解同」と一体化の県行政、責任は重大 三重県立松阪商業高校校長自殺の真相を明らかにする会

滋賀県近江八幡市の「同和啓発」を問う 同和行政終結を求める近江八幡市民の会

いま、なぜ「人権教育」推進なのか その主体は誰か(下) 木村光夫

人権擁護推進審議会第40回会議議事要旨

**関西大学人権問題研究室紀要 第40号**(関西大学人権問題研究室,2000.1)

ロマ エジプト・ルーマニア 小川悟

介護保障と人権 障害をもつ人たちに対する人的援助システム構築のための理念と<可能性> 姜博久

人間性の回復としての言語 山村嘉己

**京都部落史研究所報 最終号**(京都部落史研究所,2000.6):300円

『野洲の部落史』が完成しました

京都部落史研究所報(1号~64号)総目次

こべる(65号~173号)総目次



京都部落史研究所報(復刊準備号~最終号)総目次

京都部落史研究所紀要(1号~12号)総目次

ごあいさつ 師岡佑行

「京都部落問題研究資料センター」発足のお知らせ

**京都部落史研究所紀要 第12号**(京都部落史研究所, 2000.6): 1,000円

東七条における疎開地整備事業とバラック対策 前川修  
史料紹介『部落開放人民大会速記録』 師岡佑行

ごあいさつ 師岡佑行

**グローブ 21**(世界人権問題研究センター, 2000.4)

共生の先覚者 巨人南方熊楠 上田正昭

新世紀の生涯学習の方向 亀岡市生涯学習懇話会の報告  
から 佐々木高明

「地区懇」に参加して 藤井昭三

「国連・人権便り」 安藤仁介

ジェンダーでよむ女性の歴史5 「わわしい女」を考える  
田端泰子

どう思いますか? 村上正直

パブリックな教育産業の行く末 八箇亮仁

東九条のまちづくりとNPO 宇野豊

錦林識字学級 宝来久子さん 福田雅子

**研究所通信 261**(部落解放・人権研究所, 2000.5): 100円

読んでみたい議論してみたい文献 「ビジネス・エシックス  
企業の市場競争力と倫理法令遵守マネジメント・シス  
テム」(高巖、T・ドナルドソン共著)

**研究所通信 262**(部落解放・人権研究所, 2000.6): 100円

読んでみたい議論してみたい文献 「川西市子どもの人権  
オンブズパーソン条例 その第1年次運営に関する報告(1  
999.4.1~12.31)」(川西市子どもの人権オンブズパー  
ソン編)

**子ども情報研究センター研究紀要 第17号**(子ども情報研  
究センター, 2000.5): 1,000円

子どもの権利擁護と子ども家庭福祉 堀正嗣

教育学の授業でなぜ「子どもの虐待」か? 住友剛

適応教室から見えてきたこと 笹倉千佳弘

環境ホルモン問題と子どものおもちゃ 真野京子

「生きる場」からの発信 ここにこんな幼稚園がある 菅  
澤順子

育育育児ワークショップ実践報告 地球市民になる、地  
球市民を育てる、学びの場とネットワークづくりへ 杉  
山尚子

子育て支援をめぐる考察 「発達」の抑圧からの解放

井上寿美

**こべる 86**(こべる刊行会, 2000.5): 300円

人と人をつなぐもの 門脇厚司『子どもの社会力』を  
よむ 中西ひとし

なぜ、現状をみないのか 住田一郎

**こべる 87**(こべる刊行会, 2000.6): 300円

「悲惨な体験」、「厳しい現実」 野町均

ヒロの落書き帳 多田ヒロミ

**雑学 下之庄歴史研究会紀要 21号**(下之庄歴史研究会, 2  
000.5): 800円

下之庄歴史研究会20周年記念イベント 対談 陰陽五行で

世界が見える 吉野裕子, 辻本正教, 吉田栄治郎

いよいよ開幕「中上健次の世界 路地から世界へ」 守  
安敏司

近世の<古代学>トリアーデ 藤貞幹・本居宣長・上田秋  
成 金井英樹

自由闊達に生きた人々 上野茂

**差別とたたかう文化 17**(「差別とたたかう文化」刊行  
会, 2000.6): 400円

「君が代」「日の丸」反対・歴史の改ざん反対・東史部  
裁判闘争支援 ぶっとばせ! 歴史の改ざん パネラー/金  
子マーティン・上杉聡・丹羽雅雄 司会/西村秀樹

沖縄平和祈念資料館問題(中) 師岡佑行

私は私でありたい 黒田薫

東アジアと日本の文化交流 藤田友治

米軍占領下から日本復帰へ 宇井純

**狭山差別裁判 第316号**(部落解放同盟中央本部中央狭山  
闘争本部, 2000.4): 300円

座談会 異議審闘争勝利にむけて 中山正敏・高橋正人・  
片岡明幸

インタビュー 司法のあらゆる場面で人権基準の確立を  
海渡雄一

改めて寺尾判決の責任を問う(第77回) 佐藤一

まんが狭山事件31 小名木証言を裏付ける 勝又進

**狭山差別裁判 第317号**(部落解放同盟中央本部中央狭山  
闘争本部, 2000.5): 300円

特集 異議申立補充書

証拠構造の分析と自白, 神戸二次鑑定/捜査にたいする

総括的批判/半沢英一筆跡鑑定書/齋藤保第二鑑定書

改めて寺尾判決の責任を問う(第78回) 佐藤一

まんが狭山事件32 獄中20年 勝又進

**狭山差別裁判 第318号**(部落解放同盟中央本部中央狭山

闘争本部, 2000.6) : 300円

特集 狭山・住民の会

市民の力で高裁包囲し再審かちとろう / ブロック別

「住民の会」交流会 / 住民の会の結成あいつぎ78団体

弁護団報告 不退転の決意で弁護団も闘う 山上益朗

狭山意見広告に大きな反響

棄却決定批判シリーズ9 スコップ

改めて寺尾判決の責任を問う(第79回) 佐藤一

まんが狭山事件33 万年筆は見える 勝又進

**滋賀の部落 306号**(滋賀県同和問題研究所, 2000.4) : 400円

どうする地区懇 御園地区意識調査を通じて 野畑命

平井清隆氏逝く 谷口勝巳

どこへ行く人権啓発 川辺勉

弥栄町同和会の発展的解散 梅田治作

「みんなで学ぶこと」の意味を問う 澤豊治

**滋賀の部落 307号**(滋賀県同和問題研究所, 2000.5) : 400円

人権施策推進懇話会に対する意見表明 部落解放同盟滋賀

県連合会

登校拒否の子どもたちから見えてきたもの 伊藤直子

地域の人々との交流のなかで 西條久代

**滋賀の部落 308号**(滋賀県同和問題研究所, 2000.6) : 400

円

同和問題の現状および今後の同和对策のあり方について

全解連・滋賀県部落解放運動連合会

どこへ行く人権啓発2 川辺勉

民主的な地域づくりに向けて地域福祉の課題を探る1 安

達信男

いま、なぜ「人権教育推進」なのか その主体は誰か1

木村光夫

**人権教育 第11号**(明治図書出版, 人権教育研究所編, 20

00.5) : 760円

特集 NGO・NPOがかける総合学習 市民団体と学校

を結ぶために

開発教育からの提言 田中治彦 / 市民を育て地域を育

む 総合的学習とこども・市民のエンパワー 森良 /

「本ものの文化」との出会い 大枝明 / 地球市民社会

におけるコモン・アジェンダについての気づきから行

動へ 角田尚子 / 地球のネットワークが豊かにする人

権総合学習 市民活動との連携と同和教育・人権教育

斎藤史恵 / 「こんなに脳みそ使ったん、初めてや！」

卒業論文作成の実践 星野勇悟

書評

「言いにくいことをうまく伝える会話術」(ダグラス・

ストーン, ブルース・パットン, シーラ・ヒーン著)

/ 「市民のイニシアティブ 志木市民がつくった環境

プラン」(エコ・コミュニケーションセンター編) /

「人生の教科書・ルール」(藤原和博, 宮台真司著)

/ 「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ」(逢洋子著)

**人権教育研究 第8号**(花園大学人権教育研究室, 2000.3)

在日コリアンの日本の通称名について その社会的、歴

史的および制度史的要因の分析 金英達

ピューリタンにおける「人の再生・町の再生」 ジョン・

パニヤン「The Holy War」を中心に 岸衛

アメリカ仏教フェミニズムの動向 島崎義孝

生きることの価値と意味 いのちの不思議 辻光文

帝銀事件のいま(4) 目撃供述の問題 浜田寿美男

葛藤(紛争)理論と差別 八木晃介

児童手当制度をめぐる諸問題 家族賃金と児童手当 北明美

**人権教育思想研究 関西外国語大学人権教育思想研究所紀**

**要 第3号**(関西外国語大学, 2000.3)

関西外大生は人権に関する英単語として何を選んだか 大

田垣義夫

米国における英語公用化運動の是非と人権問題について

木村正則

障害のある人と参政権 投票権と選挙運動を中心に 久禮

義一

コルソウ島のクレオール言語: パピアメント 言語を奪

われた人々の言語再獲得 三原幸久

人の生存と環境 渡辺仁治

**信州農村開発史研究所報 第72号**(信州農村開発史研究所,

2000.4)

江戸時代の被差別部落の生活を考える 柳沢恵二

**水平社博物館研究紀要 第2号**(水平社博物館, 2000.3) :

1,000円

今田丑松と水平社創立者たち 大日本国粋会と奈良県水

平社 守安敏司

同胞会近畿地区連絡協議会の歩み 岩本孝樹

朝鮮の被差別民と水平社運動 水平社との交流ノート 金

井英樹

**別冊スティグマ 第11号**(千葉県人権啓発センター, 2000.

3) : 2,000円

特集 差別と人権確立

総論 人権行政と日本の人権状況 江橋崇 / 部落差別

と人権確立 「人権教育のための国連10年」と部落解

放運動 鎌田行平/障害者差別と人権確立 「障害者」  
の人権 山田晴子/子らへの差別と人権確立 教育改革  
と子どもの人権 池口紀夫/女性差別と人権確立 真の  
男女平等社会を築くために 浦野美智子/外国人差別  
と人権確立 鈴木脩平他/在日朝鮮人差別と人権確立  
世界人権宣言と在日朝鮮人 李洋秀/高齢者差別と人  
権確立 高齢者と人権 鎌田行平/HIV等感染症差別  
と人権確立 AIDSは終わった? 捧陽子/沖縄差別  
と人権確立 少女の生命・尊厳を軍隊に蹂躪させない  
ために 太田武二

「差別」という現象についての考察 柄俊雄

座談会<不登校・登校拒否問題>載録 澤谷伸子

不登校への誤解と偏見 松村正子

**別冊スティグマ 第12号**(千葉県人権啓発センター, 2000.  
4): 2,000円

講演 子どもの心と人権 石川憲彦

講演 人権と行政 同和行政を重要な柱にする人権行政の  
創造を 友永健三

被差別部落民衆とその仕事 坂井康人

**世界人権問題研究センター研究紀要 第5号**(世界人権問  
題研究センター, 2000.3): 2,500円

自由権規約個人通報手続におけるratione tempore 徳  
川信治

近世都市における「遊民」の諸相 下級宗教者・大道芸・  
門付け・物売り・職人 山路興造

近世墓地「南無地蔵」考 村上紀夫

近代被差別部落の人口変動とその類型 山本尚友

物語行為としての人権教育実践をめぐる一考察 「在日  
朝鮮人教育」実践現場をフィールドワークする前になす  
べきこと 倉石一郎

人身売買に関する現行国内法制度と問題点 吉田容子

**はらっぱ 195**(子ども情報研究センター, 2000.4): 700円

「10代のためのアクセスライン」実施! 編集部

学生主体のNPOブレンヒューマニティー 川中大輔

国際読書年をめぐる 風林英美

子育て支援から見てきたもの 山本瑛子

市民と共に歩む子育て支援 箕面市地域子育て支援センター  
伸子せんせいのひとりごと 先生はいそがしいのか? 水  
登伸子

子どもの居場所 東光学園分園型自活訓練の家・辻本ホー  
ム 辻本久実

北千里自然観察会1月2月 喜田久美子

忘れられないことば 鈴木祥蔵

子どもたちの現在 就学前の子どもたち 岩堂美智子

私の本棚 「哲学と子ども 子どもとの対話から」(G・  
B・マシューズ著)/「旅をする木」(星野道夫著)

**はらっぱ 196**(子ども情報研究センター, 2000.5): 700円

第14回合宿研究会報告 今、人権保育の内容を問う

卒業証書に選ぶ自由を 佐藤圭一

そらちのたわごと 熊谷そら知

新エンゼルプランは何を問題にしているのか 森田明美

柔軟な心で寄り添う 南田安紀子

一時保育が保育を変える 京都市立楽只乳児保育所

学校は今 未来・発見! 夢・体験 大東市立四条小学校

伸子せんせいのひとりごと 中学校の部活動 水登伸子

子どもの居場所 児童養護施設で生活する子どもたち 和  
泉幼児院

北千里自然観察会3月 喜田久美子

忘れられないことば 鈴木祥蔵

子どもたちの現在 多様な人間関係の中で育つ乳幼児 吉  
田洋子

私の本棚 「ことりをすきになった山」(エリック・カー  
ル絵、マクラレン文)/「奪われし未来」(シア・  
コルボーン他著)

**はらっぱ 197**(子ども情報研究センター, 2000.6): 700円

大阪府内自治体調査報告 児童館と子どもの人権

ティーンズメッセージfromはらっぱ 自由の学校サドベリー  
バレースクールから ヒラリー・ホルブロウ

渡日生の強制退去問題と教育を受ける権利 中津美和

今どき子育て事情 「子育て支援」!? 渡辺美佐子

保育・ゆめ・未来 多文化共生の保育 八尾市立安中東保  
育所

伸子せんせいのひとりごと 担任はどうやって決まるか

水登伸子

子どもの居場所 児童自立支援施設大阪市立阿武山学園

石田雅弘

北千里自然観察会4月 西川整子

忘れられないことば 鈴木祥蔵

子どもたちの現在 子どもの生活とことば育ちの研究 早  
川勝広

PICKUP 絵本「ゴムの手の転校生」(上仲まさみ作・高田  
耕二画)

私の本棚 「バーニング・シーズン」(サラ・パレツキー  
著/山本やよい訳)/「斎藤家の核弾頭」(篠田節子著)

**ヒューマンライツ 145** (部落解放・人権研究所, 2000. 4) : 525円

人権啓発研究集会(群馬)

パネルディスカッション「人権の世紀と『教育・啓発法』」組坂繁之・榎原寿彦・林弘二・金城清子・友永健三 / 入門講座2 身近な差別のこと、もっと話そう 粕川村コミコミくらぶ

シリーズこれからどうする「人権教育のための国連10年」 友永健三

戦後歴史学を歩む4 複眼的、多角的に歴史を捉える 上田正昭(聞き手 溝上瑛)

高校生が出会った長島愛生園の人びと 識ることと、受けとめること 延和聰

部落解放運動は今 新しい風48 変革のための調査 辻暉夫 博物館と人権教育6 実物に触れて学ぶ 小島伸豊

部落の歴史あれこれ23 鎖国と皮革 塩見鮮一郎

人権の国を創りたい 東ティモール女性人権活動家の声 はしもとけいこ

車いすであるく南米3 はるばると、ボリビア・ペルー 乾千恵

欧州から見た社会システム改革 「競争より連帯」をめざして 竹信三恵子

多様性トレーニングガイド 人権教育リーダーを育てる 森田ゆり

親として生きるということ 子どもの発見 田上時子

図書紹介「情報法入門」(石村善治・堀部政男編) 田畑重志

映画紹介「火星のわが家」(大嶋拓監督) 江利川憲

新刊紹介

「断絶の世紀 証言の時代 戦争の記憶をめぐる対談」(徐京植・高橋哲哉著) / 「唄で命をつむいで 部落のおばあちゃん、母、そして私」(ただえみこ著) / 「心に火をつける人、消す人」(赤池学・金谷年展・中雄政幸著) / 「証言 水俣病」(栗原彬編) / 「非暴力トレーニングの思想 共生社会へ向けての手法」(阿木幸男著)

**ヒューマンライツ 146** (部落解放・人権研究所, 2000. 5) : 525円

沖縄と人権

沖縄サミットと反基地運動 新崎盛暉 / 女性・子どもの視点から問う 女性の人権と基地・軍隊、平和・安全保障 高里鈴代 / 連帯して思いを伝えたい アメラ

ジアンネットワーク 中村一成 / 沖縄人権協会の歩み つむらあつこ

私のいい出会い1 南ぬ風人まーちゃん 上田康平

戦後歴史学を歩む5 戦中の「大いなる悲しみ」が原点 上田正昭(聞き手 溝上瑛)

部落解放運動は今 新しい風49 大阪市立の全保育所で完全給食を 辻暉夫

博物館と人権学習7 インターネットを使って学ぶ 小島伸豊

部落の歴史あれこれ24 水平と階級 塩見鮮一郎

車いすであるく南米4 はるばると、ボリビア・ペルー 乾千恵

道徳教育と人権教育 人権教育に関する東北アジア・トレーニング・ワークショップに参加して 林伸一

多様性トレーニングガイド 人権教育リーダーを育てる 森田ゆり

親として生きるということ 第2回 田上時子

石原都知事発言をめぐる市民の動きと論点 熊本理抄

石原発言の背後にある人種主義政策の問題性 武者小路公秀 図書紹介「インターネットと法」(高橋和之、松井茂記

編) 田畑重志

映画紹介「息づかい」(ビョン・ヨンジュ監督) 江利川憲

新刊紹介

「歴史としての戦後史学」(網野善彦著) / 「不服従を講えて『スペシャリスト』アイヒマンと現代」(ロニー・ブローマン、エイアル・シヴァン著) / 「ビジネス・エシックス 企業の市場競争力と倫理法令遵守 マネジメント・システム」(高巖、T・ドナルドソン著) / 「介護保険の教室『自立』と『支え合い』の新秩序」(岡本祐三著) / 「自己カウンセリングとアサーションのすすめ」(平木典子著)

**ヒューマンライツ 147** (部落解放・人権研究所, 2000. 6) : 525円

警察と人権教育

警察官に対する人権教育の課題 金子武嗣 / 刑事司法改革と狭山再審請求 鯉越溢弘

公共圏と市民社会 日本の「市民革命」を展望する 川村暁雄

私のいい出会い2 南ぬ風人まーちゃん(後) 上田康平 戦後歴史学を歩む6 大いに論争、人間としては尊敬しよう 上田正昭(聞き手 溝上瑛)

部落解放運動は今 新しい風50 知的障害者の就労支援  
辻暉夫  
博物館と人権学習 8 人権相談事業と資格付与 小島伸豊  
部落の歴史あれこれ25 別所と蝦夷 塩見鮮一郎  
アイデンティティと差別・偏見 1 研究の出発点 石川結加  
車いすであるく南米5 はるばると、ボリビア・ペルー  
乾千恵  
多様性トレーニングガイド 人権教育リーダーを育てる  
森田ゆり  
メディア・リテラシーを学ぶ 1 ニュース報道の構成  
「和歌山毒物カレー事件初公判報道」を読み解いて 荒薦  
かおり  
図書紹介 「現代の法と人権」(高野真澄著) 友永健三  
私の映画批評 「風とゆききし」(柳澤寿男監督) 江利  
川憲

今月のおすすめ

「都市に自然をとりもどす 市民参加ですすめる環境  
再生のまちづくり」(宗田好史他著) / 「障害者が社  
会に出る その後の五人の人生」(松兼功著) / 「フィ  
ランソロピーの橋 心豊かな社会を築くために」(林  
雄二郎・加藤秀俊編著) / 「利用者のための介護保険  
Q & A」(高齢社会をよくする女性の会編) / 「脱戦  
争論 小林よしのりとの裁判を経て」(上杉聰編著)

**ひょうご部落解放 92号**(兵庫部落解放研究所, 2000.3) :  
1,000円

兵庫における部落史の研究 3

近世後期における皮革経営の実態 姫路市高木の高田  
家文書を中心として 永瀬康博 / 近代前期播州高木  
村の皮革業覚書 高木伸夫 / 明治初年の戸籍について  
の研究 3 壬申戸籍の具体的事例分析 安達五男 /  
尼崎市域における皮多村の形成 三澤雅俊

史料紹介 淡路における部落史史料 濱岡きみ子

地域のがんばりに学ぶ 解放学級で学んだことを学校へ、  
そして地域に 中川典也

書籍紹介 「`三木の部落史`を学ぶために」 部落史発  
見の旅への誘い 三木市部落史研究会

**ひょうご部落解放 93号**(兵庫部落解放研究所, 2000.5) :  
700円

特集 解放運動の中の女性

「語る」「聞く」「知る」という体験 1999年度「解  
放運動の中の女性」研究会より もりきかずみ / 女た  
ちが悩み闘う過程を知ること 三原容子 / 「解放運動

の中の女性」研究会の一年を終えて 皇甫康子 / 解放  
運動の中の女性 2, 3 皇甫康子 / 全国女性集会を力に  
岸田章子・上野昭代・岡坂秀子

解放学級は人権教育の瞳であり発信基地である 春川政信  
映画評 「クッキー・フォーチュン」(監督ロバート・ア  
ルトマン) 荻原弘子

ビデオ評 「風化からの告発」 身元調査を考える 東田  
啓寿

新聞記事から あなたならどう読む? 新聞投稿「見るに  
堪えぬ牛の半身宙ぶり」

**部落 660号**(部落問題研究所, 2000.4) : 500円

特集 「ケガレ意識」と差別

てい談 「ケガレ意識」と差別をめぐって 加藤西郷・  
浜田博生・尾川昌法

西本願寺宗会議員「差別発言」裁判終息 山村修

「解同」追隨に走る近江八幡市教育委員会 小森康三

「みんなでかえよう」福岡県同教への教諭派遣・人件費  
支出の違法をただし、「同和」教育を終わらせる住民監  
査請求・住民訴訟 植山光朗

熊野三山関係結界石その後の経過ほか 池田孝雄

人間に光を 部落問題解決へのあしどり 1 足跡 東上高志  
ホントに本当! 虚構理論を斬る 「差別意識」は、なお根  
深く存在している? 梅田修

小説にはじめて登場した水平社 倉田潮『肉魔』 秦重雄

**部落 661号**(部落問題研究所, 2000.5) : 500円

特集 同和行政終結の展望を語る

地域改善対策担当者交流研究会の取り組みから 柳田  
孝二 / 同和加配教員の廃止をめぐって 坂本久幸 / 団体  
助成 金等に対する取り組み 芝田正文 / 山口県における  
同和行政終結をめざすとりくみ 末長正 / 条例廃止直接  
請求をめざす全解連泉佐野支部の取り組み 藤岡誠

憲法調査会の設置と日本国憲法のゆくえ 渡辺治

三重県立松阪商業高校「学校長自殺」の背景には何が 前  
島格也

文学青年平井清隆氏逝く 滋賀の同和教育研究の草分け  
谷口勝己

人間に光を 部落問題解決へのあしどり 2 胎動 東上高志  
ホントに本当! 虚構理論を斬る 部落民としての誇りを持  
つことが部落解放運動に不可欠である? 尾川昌法

小説にはじめて登場した水平社宣言 倉田一郎『太陽は輝  
きたり』 秦重雄

**部落 662号**(部落問題研究所, 2000.6) : 500円

## 特集 宗教と部落問題

部落問題の解決に果す宗教の役割 加藤西郷 / 真宗フリートークネットワークのこと 殿平善彦 / 西本願寺教団の体質と光善寺問題 尺一顕正 / 永万寺紛争と部落問題 堀田弘城 / 真宗フリートークネットワーク全国交流集会に参加して 高橋哲了 / フリートークの会に期待する 小倉雅昭 / 部落問題の対話的解決のすすめ キリスト教在家牧師の小さな模索 鳥飼慶陽  
 「地区児童生徒」でない普通の子どものとして 津山市のいつまでも「同和・部落ではない」新しい運動 末永弘之 徳島県、「同和タブー」打ち破る世論と運動たかまる 河野みどり  
 人間に光を 部落問題解決へのあしどり 3実態 東上高志 ホントに本当! 虚構理論を斬る 部落問題の解決とは部落民が部落民として解放されることである? 成澤栄壽  
 『破戒』に先行する人種論 鷗外による問題提起 川端俊英

**部落解放 469号**(解放出版社, 2000.5): 630円

## 特集 中上健次の世界 路地から世界へ

座談会 路地、愛おしさの正体 高澤秀次, 田畑稔, 中上紀, 千本健一郎 / 「路地」の映像 四方田犬彦 / 中上健次と韓国 川村湊 / いよいよ開幕「中上健次の世界 路地から世界へ」展 守安敏司  
 差別の時の流れ 写真集「ハンセン病療養所 隔離の90年」 徳永進  
 糾弾は校長を追い詰めたか? 松阪商業高校校長自殺をめぐる日本共産党=「全解連」のキャンペーンを批判する 編集部  
 竹田の子守唄 被差別部落の伝承歌とヒット・ソングの間 藤田正  
 差別からの解放をめざす人権文化の史脈「大阪の部落史」 発刊の意義 上田正昭  
 水平社精神を継ぐもの(上) 近代の奈落を歩く7 戦後奈良の部落解放運動と川口正志 宮崎学  
 映像フリースペース 死刑の執行 アメリカ映画「グリーンマイル」(フランク・ダラボン監督) 白井佳夫  
 本の紹介

「被差別部落史の研究 移行期を中心にして」(山本尚友著) / 「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ」(遙洋子著) / 「在日コリアンの胸のうち 日本人にも韓国人にもわからない」(辛淑玉著) / 「子どもたちの表現を拓く 書くことの可能性と授業」(福岡部落史研究会編)

**部落解放 470号**(解放出版社, 2000.6): 630円

## 特集 近代日本と部落問題

差別は近代の産物 ひろたまさき / 近代日本の地域社会と部落差別 今西一 / 眼差し/言葉/権力 近代部落問題の可視化・対象化 安保則夫 / 近代における部落差別意識の特質 黒川みどり  
 精神障害者の社会的入院を告発する笑顔の人々 石神文子 許すまじ石原暴言を 高賛侑  
 石原慎太郎・東京都知事の差別発言に抗議する 部落解放同盟中央本部  
 犠牲と差別の連鎖を断ち切れ 目取真俊  
 金君のキックオフ 朝高から在日朝鮮蹴球団へ 南雲海人 水平社精神を継ぐもの(下) 近代の奈落を歩く8 戦後奈良の部落解放運動と川口正志 宮崎学  
 映像フリースペース 貧しさと生涯と イラン映画「太陽は、ぼくの瞳」(マジット・マジディ監督) 白井佳夫  
 本の紹介

「唄で命をつむいで 部落のおばあちゃん、母、そして私」(ただえみこ著) / 「近代日本のハンセン病と子どもたち・考」(滝尾英二著) / 「怒りの臨界」(鎌田慧著) / 「人が主役のリサイクル」(森住明弘著)

**部落解放運動情報 46号**(部落解放運動情報編集委員会, 2000.5): 300円

こんな本がでています 「男の性(さが)」(梁石日著)

**部落解放研究 第133号**(部落解放・人権研究所, 2000.4): 1,000円

## 特集 雇用差別の禁止

ILO111号条約の意義と日本の状況 吾郷眞一 / 雇用差別禁止法制について 竹下政行 / 石川県における統一応募用紙選考をめぐる推移 棒田昌生 / 採用選考時における労働者の個人情報保護 竹地潔  
 ヘッドスタートに学ぶ 高田一宏  
 結婚に現れる部落問題・人権意識調査の結果について (中間報告) 中村清二  
 書評

「和歌山県同和運動史 通史編」(和歌山県同和委員会編) 河瀬健太 / 「子どもの心がひらく人権教育 アイデンティティを求めて」(松下一世著) 川向秀武 / 「同和地区における子育ての現状と課題に関する実証研究」(神原文子著) 芝山明義 / 「偏見解消の心理 対人接触による障害者の理解」(山内隆久著) 増田圭

**部落解放ひろしま 第46号**(部落解放同盟広島県連合会, 2000.5)

## 特集 在日外国人と人権

新来韓国人の言い分 安錦珠 / 子ども達と共に 朴美穂  
/ インタビュー F F O に集う女性たち 編集部 / 広がる  
ブラジル人コミュニティ 村田民雄

いま県教委のここを衝かなければ 小森龍邦

日本国の戦後処理と日本人の戦争観 「記憶の暗殺者」  
集団批判 金子マーティン

浄土真宗本願寺派札幌別院「差別落書き事件」と『ヤイ  
ユーカラの森』 計良光範

親鸞と水平社に学ぶ 人間解放への道 川尻文昭

「穢れ意識」を問う射程3 「忌中」から「還浄(ゲンジョ  
ウ)」 小武正教

**月刊部落問題 280** (兵庫部落問題研究所, 2000.4) : 350円

## 特集 隣保館の新たな方向

生活文化会館の今後を展望する 横山和夫 / 地域福祉  
文化交流センター 大津市昭和会館の新たな方向の試  
み 川辺勉 / 心のふれあいを広め、深める知立市西丘  
文化センター運営を目指して 杉浦三雄

神戸市における同和施策住宅への「応能応益家賃制度」  
導入の現状と課題 森元憲昭

児童館でのこと その1 山本邦彦

子ども風土記を全国津津浦浦に なぜ、いま子ども風土  
記か 2 今田保

<近代の社会的差別> 48 友愛会の歴史的意義と社会事業  
2 布川弘

田畑忍先生と賀川豊彦 後藤正人

**月刊部落問題 281** (兵庫部落問題研究所, 2000.5) : 350円

## 特集 人権侵害の救済施策

人権侵害の救済と「アフターマティブ・アクション」  
小林武 / 「国内人権機関」を創ろう 藤原精吾 / 「人権  
救済機関」創設論議と人権のための闘争 伊賀興一 / 人  
権救済機関を考えるうえでの若干の論点 奥山峰夫

鈴木良先生の本「歴史の楽しさ 地域を歩く」を読む 景  
山一正

アイヌ民族をめぐる諸問題1 加藤西郷

子ども風土記を全国津津浦浦に なぜ、いま子ども風土  
記か 3 今田保

**月刊部落問題 282** (兵庫部落問題研究所, 2000.6) : 350円

## 特集 自発的な新しい模索 「終結」後のまちづくり

終結後のとりくみ 高知県佐川町 石元公令 / 「終  
結」後のまちづくり 和歌山県南部町 柳田孝二 /  
「同和」ではなく普通のむらづくりをめざして 滋賀

県日野町 東川嘉一 / 団体補助金等に対する取り組  
み 愛媛県広見町 芝田正文

<近代の社会的差別> 49 友愛会の歴史的意義と社会事業  
3 布川弘

大正デモクラシーの光と影(下) 児玉花外の随筆「鈴  
蟲の死」、詩「支那の空へ」「秋葉散る黄輿」をめぐっ  
て 後藤正人

児童館でのこと その2 山本邦彦

**部落問題 調査と研究 145** (岡山部落問題研究所, 2000.  
4) : 650円

「いじめ」の政治学1 「人権」と「権力」 小畑隆資  
講演 わたしの「カウンセリング」開眼 「美作地域の青  
少年問題」出版後1年の歩み 福田史郎

行政主導同和教育の克服 やさしい部落問題講座6 大森  
久雄

もう一つのいのち2 佐久間修さん 難波一夫

自分ってすごいね 小学校の保健室 矢萩小百合

永井荷風「火花」の世界 大正期の文学に現れた人間観  
4 川端俊英

忘れられた農民一揆1 清野忠昭

民衆とともに歩んだ大いなる先達 手塚亮 中島守明

**部落問題 調査と研究 146** (岡山部落問題研究所, 2000.  
6) : 650円

2000年度、全解連運動方針の特徴 中島純男

岩野泡鳴「部落の娘」の世界 大正期の文学に現れた人  
間観5 川端俊英

「いいかげん」は難しい 小学校の保健室 矢萩小百合

「いじめ」の政治学2 「人権」と「権力」 小畑隆資  
**部落問題研究 150** (部落問題研究所, 2000.3) : 1,111円

## 特集 1998年部落問題研究の成果と課題

部落問題における「人権」論の検討 渡辺久丸 / 前近代身  
分制研究の成果と課題(1998年) 木下光生 / 近現代部落  
史研究の成果と課題 布川弘 / 教育への人権論的アプロ  
ーチ 差別と偏見の人権教育から可能性と存在の人権教育へ  
生田周二 / 部落問題の歴史的研究文献目録(1998年)

史料紹介 戦時下製膠業統制2 鈴木翰旧蔵史料より

鈴木栄樹

**もやい ながさき部落解放研究 第40号** (長崎県部落史研  
究所, 2000.3) : 700円

## 特集 部落問題学習

提言 部落史学習に考える 竹森健二郎 / シンポジュー  
ム「部落史を如何に伝えるか」史実と授業に係わって

桐原健司, 伊藤闊, 一法師英昭 / 6年1組社会科支援案 平山忠明 / 第3回「部落問題学習」実践交流会(報告) 道津喜八郎 / 部落の起源 部落史観の見直し について 阿南重幸

「犯科帳」史料紹介 享和2年~文化5年

### 立命館平和研究(立命館大学国際平和ミュージアム紀要)

第1号(立命館大学国際平和ミュージアム, 2000.3)

特集 第3回世界平和博物館会議歴史教科書ワークショップ報告

アメリカの教科書に見る真珠湾攻撃と原爆投下についての記述の変遷 深山やよい / 日本の教科書制度の問題点 高嶋伸欣 / ドイツの歴史教科書のパラダイムシフトとそ

の展望 ヨハネス・ホフマン / 戦後ドイツにおけるナチス的過去の問題 アクセル・シルト / 歴史研究者の視点から見た中国の歴史教育 蔡錦松 / 現代史教育における戦争責任問題の取り上げ方 荒井信一 / 過去との折り合いをどうつけるか ウラジミール・ポロジイ / 韓国と日本の歴史教科書研究と改善のための提言 鄭在貞 戦争を語り伝える ローズマリー・バイヤー=デ・ハーン 平和を開発する力を求めて 藤岡惇 国民義勇軍と国民義勇戦闘隊 中山知華子 中国での日本人反戦運動における天皇制認識について 山辺昌彦

## 新聞書評欄等 (2000年4月~6月受入)

~各新聞から書評・映画評・VIDEO評をピックアップしました~

**解放新聞 第1967号**(解放新聞社, 2000.5.1): 120円

今週の一冊 「居場所なき時代を生きる子どもたち」(三沢直子, 宮台真司, 保坂展人著)

VIDEO 「モンタナの風に抱かれて」(監督ロバート・レッドフォード) 川崎彰彦

**解放新聞 第1969号**(解放新聞社, 2000.5.22): 80円

今週の一冊 「学校で起こっていること 中学生たちが語る、いじめの『ホント』」(「進研ゼミ」中学講座編)

映画 「息づかい」(監督ピョン・ヨンジュ)

**解放新聞 第1970号**(解放新聞社, 2000.5.29): 80円

山口公博が読む 今月の本

「これでいいのだ。赤塚不二夫対談集」 / 「見世物稼業 安田里美一代記」(鶴飼正樹著) / 「金時鐘の詩 もう一つの日本語」

今週の一冊 「路上の瞳 ブラジルの子どもたちと暮らした400日」(木村ゆり著)

**解放新聞 第1971号**(解放新聞社, 2000.6.5): 120円

今週の一冊 「侵略戦争 歴史事実と歴史認識」(瀧巖厚著) VIDEO 「白い馬」(監督椎名誠) 川崎彰彦

**解放新聞 第1972号**(解放新聞社, 2000.6.12): 80円

今週の一冊 「“奪われし未来”を取り戻せ 有害化学物質対策 NGOの提案」(化学物質問題市民研究会編)

**解放新聞 第1973号**(解放新聞社, 2000.6.19): 80円

今週の一冊 「君は小人プロレスを見たか」(高部雨市著)

**解放新聞東京版 第500・501号**(解放新聞社東京支局, 2000.5.15・6.1): 180円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 「インサイダー」(監督マイケル・マン)

**解放新聞東京版 第502号**(解放新聞社東京支局, 2000.6.15): 90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 「エリン・ブロンコビッチ」(監督スティーヴン・ソダーバーグ)

### 紫明だより

新組織になって1ヵ月近くがすぎました。業務内容は研究所時代とほとんど変わらないのですが、7月3日に記者会見をおこない、テレビ・新聞で宣伝をしていただいたおかげで、閲覧者と電話での相談業務が増えました。特に近所の方が気軽に本を読みこられるようになったのは、嬉しい変化です。祇園祭も終わり、京都はムシムシした夏の始まりです。(P)

**8月12日(土)~19日(土)は夏期図書整理期間のため  
閉室いたしますので、図書閲覧・貸出はできません。**